



かんはつ子

夕暮れのききよう緑地グラウンドで、白い息を吐きながら、サッカーボールを追いかける子どもたち。高梁フットボールクラブの練習風景です。

その中の一人、森迫さくらさん（高梁小学校6年）。全国9地域32チームが参加する、小学生女子8人制サッカー全国大会「第3回Jヴィレッジなでしこカップ」(2月10〜12日・福島県)の、県選抜チーム「岡山ブーガ」のメンバーとして出場しました。

同クラブのコーチでもある父・健一さん(42)の勧めもあり、4月に行われた「岡山ブーガ」の選考会に参加。メンバーに選ばれた時はとても驚いたそうですが、全国大会を目指して、クラブや「岡山ブーガ」の練習で技術を磨いてきました。

さくらさんが、サッカーを始めたのは幼稚園の頃。当時、同クラブに入っていた兄の良太さん(4)の試合の応援に行った際、人数不足で急ぎよ出場したのがきっかけだそうです。小学1年生になってから同クラブに入り、今は妹のあやめさん

『フィールドを駆け抜ける』

森迫さくらさん（松山）

(同小4年)も一緒です。父・健一さんは「この周辺にサッカーをしている女の子は少ないので、選ばれなくても友達を作るきっかけになればと選考会の参加を勧めました。今回、『ブーガ』に選ばれ、練習に取り組み意識も前向きに変わったようです。

また、同クラブの代表・有光正巳さんも「クラブのメンバーは男の子がほとんど。体力的な違いもあり、技術はまだまだのところがありました。『ブーガ』に入ってから本人のやる気も出て、技術も上がってきましたね」と話されます。

さくらさんの「岡山ブーガ」でのポジションは、レフトバック。「相手に背後に回りこまれないよう、全体を見渡すことを心がけるようになりました」と、「岡山ブーガ」の経験を着実に身につけています。

「大事な試合に負けてしまった時はすごく悔しい。そんな時はもつともつと練習して上手くなりたいたいと思います。サッカーは中学生、高校生になっても続けたい」と力強く話してくれました。



備中太鼓

リーダー 大塚 幸裕 さん(42) (備中町)

全身にズンと響く力強い和太鼓の音。備中町の「備中太鼓」の皆さんの演奏です。

現在のメンバーは、太鼓の打ち手をはじめ、バチなどの道具づくりをする人など、6歳から70歳代までの13人。毎週水・土曜日の午後7時から9時まで、備北商工会備中支所の一室を借りて練習しています。

「備中太鼓」は、当時の備中町商工会青年部が中心となって、平成9年に発足。「倉敷天領太鼓」(倉敷市)のメンバーに指導を受けながら、最初はタイヤやガムテープを貼ったバケツを使って練習しました。

お披露目公演は翌年の5月、富家小学校体育館で、「倉敷天領太鼓」の代表者・小山寛さん作曲のグルーブオリジナル曲「備中太鼓」を演奏。公演には「倉敷天領太鼓」のゲスト出演、「ふじた傳三郎太鼓」(岡山市)の友情出演もありました。

以来、市内外でのイベント出演を

響け 備中太鼓



重ね、遠くは四国へ足を運ぶこともあるとか。今も各地のイベントに年間10回ほど出向き、「備中太鼓」を含む2・3曲を演奏しています。メンバーの一人、岡本真由美さん(40)は「太鼓はストレス解消や体力づくりにもなっていて、練習を大変と感じたことはありません。演奏中、みんなの息がピタリと合った瞬間は最高の気分。お客さんのたくさんの拍手も嬉しいですね」と話されます。

ただ、最近は仕事の都合などでメンバーも減り、打ち手が少なく、思うような演奏ができにくくなっているそうで、「ぜひ新しい人にも加わってほしい」とメンバーの皆さん。

リーダーの大塚さんは「10年続けてきた活動ですから、これから先も長く受け継いでほしいと思っています。聞くのは好きでも、実際に太鼓を打つのは難しそうと尻込みする人も多いのですが、最初はみんな初心者。気軽な気持ちで練習を見に来てくださ」と呼びかけています。

「備中太鼓」のメンバーと一緒に、和太鼓の響きを体感してみたいかがですか。

高梁こどもフェスティバル ～それいけ!みんなの夢の国～

順正短期大学 幼児教育科 助教授 前嶋 英輝

今年も「高梁こどもフェスティバル」の季節がやってきました。たくさんのお子ごたちの笑顔に出会えるのが今から楽しみです。

このフェスティバルは、学生たちが自ら実行委員会を組織して手作りで行っているものです。特に今年は、第30回という記念すべき年となりました。今まで支えていただいた市民の皆さんや先輩たちに楽しい時間を過ごしていただけるよう練習に励んでいます。

今回も面白い劇や音楽で、盛り上がるステージにしていますので、ぜひご来場ください。(入場無料・予約不要です)



日時：3月4日(日)午後1時30分～午後3時30分

会場：総合文化会館

- <内容> 劇「長靴をはいた猫」
ステージドリル「Smile～夢と希望をのせて～」
ミュージカル「オズの魔法使い」
合唱
- <主催> 順正短期大学幼児教育科
- <後援> 高梁市教育委員会

■問い合わせ 高梁学園広報室 (フリーダイヤル0120-25-9944/Eメールアドレス: koho@kiui.ac.jp)

編集後記

1月から3月は「いぬる・にげる・さる」と言われるように、月日が過ぎるのが早く感じます。何かとバタバタする時期ですが気を引き締めて、一日一日を大切に過ごすように努力しています。

2月は私の誕生月です。毎年誕生日がきたら、禁煙、体力づくりなど何かを始めようと思えますが、続いたことがありません。と言いな

マラソンで広がる
人とのつながり



たかのり
中村俊則さん(60)
成羽町成羽

お話し
聞かせて

大会では、「完走」と「歩かない」を目標に自分のペースで走っています。県内のいろいろな大会に出場すると、私より年配の人(特に女性)がたくさん出場しておられ驚かされます。

体を動かすことで健康を保てるのが一番幸せですが、マラソンを通じて一緒に走る仲間が増え、大会などでさらに仲間が増え、人とのつながりが広がったことが私の財産です。また、子どもたちから「がんばってください」などと声をかけられることもあり、世代を超えたつながりを感じることもあります。

3月4日には地元で「なりわ健康マラソン」が行われます。

マラソンを始めてから毎年参加しているのですが、今年も出場する予定です。地元の大大会には、その地域の人たちが一人でも多く参加してほしいですね。

皆さんも、自分たちの町を走って仲間の輪を広げてみませんか。

がらも、また懲りずに挑戦しようとしている私。今年には自分のためではなく、家族や人のために何かできることをしてみようと思えてきます。みなさんも、何かをきっかけに自分の目標をみつめてみてはどうですか。

今まで以上に「市民の皆さんに親しまれる広報紙づくり」を目標として頑張ろうと決意を新たにしたいです。

※「なりわ健康マラソン」は3月4日(日)午前9時から成羽文化センター(受付場所)で開催されます。参加申込は、2月20日(火)まで。詳しくは、社会教育課(☎2525)までお問い合わせください。